
簿記の 5 要素

I 簿記の 5 要素

簿記は財政状態や経営成績を明らかにするために日々の取引を帳簿へ記入するが、その際、取引を五つの要素に分類して記録する。

財政状態と経営成績を明らかにすることが目的であるため、財政状態を表す要素 (資産・負債・資本)、経営成績を表す要素 (収益・費用) に分類する。これを簿記の 5 要素という。

簿記上、記録される取引は、簿記の 5 要素が増減する取引である。(簿記上の取引という)

さらに、すべてを金額で記録するため、金額で表せないものは記録の対象にならない。

(1) 資産

企業が所有するもので、経営に役立つ財貨 (モノ、お金) 債権 (他人に請求する権利)・プラスの財産

例) 財貨・・現金、商品、建物、備品

債権・・貸付金、売掛金、未収入金

(2) 負債

企業が将来、他人に一定の資産を提供しなければならない義務・マイナスの財産

例) 金銭を支払う義務・・借入金、買掛金、未払い金

商品を提供する義務・・前受金、商品券

(3) 純資産 (資本)

株主が出資した払込金とそれをもとにして獲得した利益・資産から負債を差し引いた正味の財産

例) 株主が出資した払込金・・資本金

企業が獲得した利益・・繰越利益剰余金

(4) 収益

企業活動によって財産が増加する原因・企業活動の成果

例) 受取家賃、受取手数料、売上

(5) 費用

企業活動によって財産が減少する原因・収益を獲得するための犠牲 (儲けるために使ったもの)

例) 支払運賃、支払家賃、給料

Ⅱ 資本(純資産)をイメージしよう

貸借対照表(B/S)

期首(朝)

資産 1,000	負債 300
	純資産(資本) 700

ある日の朝、お財布の中には1,000円入っていましたが、300円は友達に借りていて明日返さないといけないので、正味自分のお金は700円です。

今日一日で増加した純資産(正味自分のお金)が、今日1日の儲け(利益)です。
純資産というものがあるわけではないので、増えたのはお金という資産です。
ですが、儲け(利益)は純資産の増加分となります。

貸借対照表(B/S)

期末(夜) = 翌期首(翌日朝)

資産 1,600	負債 300
	純資産(資本) 1,300

今日は日雇いバイトに行きました。
バイト先に行くまでの交通費を200円使い、バイト代800円もらったので、夜財布の中には1600円ありました。
300円は明日友達に返すので、夜の時点での正味自分のお金は1,300円です。

お金は減りましたが、正味自分のお金(純資産)は変動しませんので、儲け(利益)はゼロです。

貸借対照表(B/S)

翌期末(翌日夜)

資産 1,300	負債 0
	純資産(資本) 1,300

翌日、友達にお金を返しました。
正味自分のお金(純資産)は1,300円のままです。

財政状態(どれくらい財産を持っているか)はBSで表し、
経営成績(どれくらい儲けたか)は期首と期末のBS純資産の変動額でわかりますが、
BSだけではどうやって儲けたのかがわかりません。そこでPLを作ります。

Ⅲ PLとBSのつながりをイメージしよう

貸借対照表(B/S)

期首(朝)

資産		負債	
③現金	1,000	②借入金	300
		純資産(資本)	
		①資本金	700

- ① お母さんからおこづかい700円もらいました
 ② 友達から300円借りました
 ③ その結果、今1,000円の現金を持っています

④-200

⑤+800

貸借対照表(B/S)

期末(夜)

資産		負債	
現金	1,600	借入金	300
		純資産(資本)	
		資本金	700
		⑥利益剰余金	600

損益計算書(P/L)

朝～夜

費用		収益	
④交通費	200	⑤売上	800
⑥当期純利益(もうけ)600			

朝の財産
一致

⑥正味自分の財産が600円増えて1,300円になりました

④バイトへ行くのに交通費200円使いました

⑤バイト代800円を受け取りました

利益(もうけ)の計算の仕方は二通りあります。

① 財産法・・・前期と当期の純資産の差額で求める

② 損益法・・・収益と費用の差額で求める

損益法の利点はどのようにしてもうけたのかがわかることです。

仕訳 → 勘定記入

I 勘定記入のルール

簿記の5要素の増減を記録する道具を勘定（a/c）という。

勘定は、5要素の増加と減少を左右に書き分けることでプラスとマイナス、さらには最終的な残り（残高）を表す。

＜勘定の雛形＞

現金	←勘定科目	
700	200	←現金が、1,800 円増えて、200 円減って、今 1,600 円持っていることが分かる。
300		
800		

増加と減少を左右にかき分ける際、左右どちらに増加をどちらに減少を記入するかが5つの要素ごとに決まっているため、ルールとして覚える!!

P/L・B/Sで左側に記載される要素は左側に増加、
P/L・B/Sで右側に記載される要素は右側に増加を記入する。

これから学習する簿記は、すべての取引を右側と左側の二つの側面で捉えて処理していく。

このような簿記を複式簿記という。

複式簿記では左側を「借方」、右側を「貸方」という。

II 仕訳→勘定記入

1 仕訳の意義

複式簿記では、取引をいきなり勘定に記入せず、勘定へ記入する前に「仕訳」を行う。

仕訳とは、取引を借方要素と貸方要素に分解して、勘定科目と金額を決定することを言う。

2 取引の二面性

複式簿記では、一つの取引に対して、必ず「借方要素」と「貸方要素」二つの側面から記録をするため、借方要素が何で、貸方要素が何なのか整理する必要がある。

この整理する作業が「仕訳」であり、複式簿記において最も重要な過程である。

「現金 10,000 円を銀行から借りる」

- 現金が増加する（資産の増加＝借方要素）
- 借金が増加する（負債の増加＝貸方要素）

3 仕訳の要領

①取引の分解 現金の増加（資産の増加）＝借方要素
 借金の増加（負債の増加）＝貸方要素

②勘定科目の決定 現金→「現金」 借金→「借入金」

③金額の決定 現金→10,000 円増加 借金→10,000 円増加・・・必ず一致する！

(借) 現	金	10,000	(貸) 借	入	金	10,000
-------	---	--------	-------	---	---	--------

4 転記

4月3日に現金100円で建物を購入した。

(簿記は建物のようなお金以外のもの(財)もすべて金額で表す。もの(財)については、基本的に買った時に払った金額で表すこととなっている。100円の価値があるから100円払って買うから)

【仕訳】

(借) 建	物	100	(貸) 現	金	100
↑			↑		
建物勘定の借方に100円記入することを表す			現金勘定の貸方に100円記入することを表す		

【勘定記入】

建 物			現 金	
4/3	現金	100		
↓	↓	↓		
取引日	相手勘定	金額		

4月3日に現金100円を支払って建物を購入したことがわかる

【仕訳】

【勘定記入】

借方に仕訳した科目 → 当該勘定の借方に記入する。
貸方に仕訳した科目 → 当該勘定の貸方に記入する。

Ⅲ 取引例

- ①株主から現金 1,000 円の払い込みを受け、会社を設立した。
 ②銀行から現金 200 円を借り入れた。
 ③銀行からの借入金 50 円を現金で返済した。
 ④利息 10 円を現金で支払った。
 ⑤家賃 120 円を現金で支払った。
 ⑥手数料を 170 円受け取った。

仕訳帳

【仕訳】

①	(借) 現金	1,000	(貸) 資本金	1,000
②	(借) 現金	200	(貸) 借入金	200
③	(借) 借入金	50	(貸) 現金	50
④	(借) 支払利息	10	(貸) 現金	10
⑤	(借) 支払家賃	120	(貸) 現金	120
⑥	(借) 現金	170	(貸) 受取手数料	170

総勘定元帳

【勘定記入】

現 金			
資本金	1,000	借入金	50
借入金	200	支払利息	10
受取手数料	170	支払家賃	120
支払家賃			
現金	120		
支払利息			
現金	10		

借入金			
現金	50	現金	200
資本金			
		現金	1,000
受取手数料			
		現金	170

IV 合計・残高とは

(1) 合計とは

勘定の借方、貸方に記入された金額の合計額をいい、借方に記入された金額の合計額を借方合計、貸方に記入された金額の合計額を貸方合計という。

(2) 残高とは

勘定の借方合計と貸方合計の差額をいい、借方に生じた差額を借方残高、貸方に生じた差額を貸方残高という。

V 財務諸表

貸借対照表 (B/S)				損益計算書 (P/L)			
資産		負債		費用		収益	
現金	1,190	借入金	150	支払家賃	120	受取手数料	170
		純資産		支払利息	10		
		資本金	1,000	当期純利益	40		
		繰越利益剰余金	40				

PL で計算した当期純利益は BS の繰越利益剰余金の増加となる

決算整理

I 売上原価の算定

1 意義

売上原価とは、売り上げた商品の取得価額を言い、売上原価は費用に属する項目である。

費用は財産が減少する原因であるため、商品(資産)を販売して、商品(資産)が減少したときに費用が発生するが、処理の迅速性という観点から、購入時点で費用(仕入勘定)として処理している。

しかし、購入した商品が期末に売れ残った場合には、商品(資産)が減少しないため、費用は発生しない。

そこで、正しい経営成績と財政状態を示すため、決算において修正が必要となる。これを決算整理という。

2 会計処理①

① 期中取引

@10 円の商品を 100 個仕入れ、代金 1,000 円は現金で支払った。

(借) 仕	入	1,000	(貸) 現	金	1,000
-------	---	-------	-------	---	-------

このうち、80 個を @15 円で販売し、代金 1,200 円は現金で受け取った。

(借) 現	金	1,200	(貸) 売	上	1,200
-------	---	-------	-------	---	-------

仕 入		売 上	
現金	1,000	現金	1,200
@10×100 個		@15×80 個	

② 決算整理前残高試算表の一部 (3 月 31 日)

決算整理前残高試算表			
仕 入 (費用)	1,000	売 上 (収益)	1,200

③ 決算整理 (3 月 31 日)

決算整理事項 ; 期末現在、商品 200 円 (@10 円、20 個) が残っている。

期末商品 200 円は費用である仕入 a/c に含まれているが、未売却であるから費用にならない。そこで、当該商品金額を仕入 a/c (費用) から繰越商品 a/c (資産) へ振り替える。

(借) 繰 越 商 品	200	(貸) 仕 入	200
-------------	-----	---------	-----

仕 入		売 上	
現金	1,000	現金	1,200
	繰越商品 200		
繰 越 商 品			
仕入	200		
		@10×20 個分引いて 80 個分を費用にする	

④ 決算整理後残高試算表の一部 (3 月 31 日)

決算整理後残高試算表			
繰越商品 (資産)	200	売 上 (収益)	1,200
仕 入 (費用)	800		

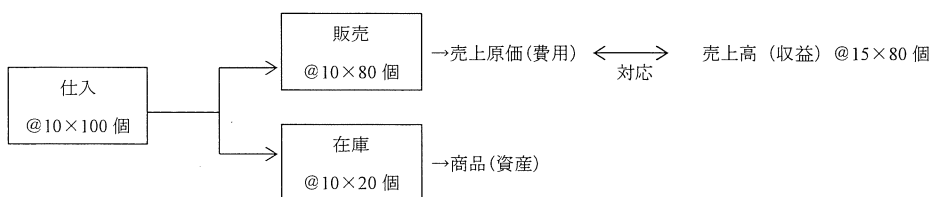
⑤ 財務諸表

損益計算書及び貸借対照表に記載される項目は、「勘定科目」ではなく「表示科目」を記載する。大半の「表示科目」は「勘定科目」と同じ名称が用いられているが、一部の項目に差異がある(以下、参照)。

- ① 売上 a/c → 売上高
- ② 仕入 a/c → 売上原価
- ③ 繰越商品 a/c → 商品

損益計算書 (一部)			
売上原価	800	売上高	1,200

貸借対照表 (一部)	
商品	200



3 会計処理② 翌年

- ① 繰越試算表の一部(4月1日)

繰越試算表	
繰越商品	200

② 期中取引

商品を仕入れ、代金 1,000 円は現金で支払った。

(借) 仕入	1,000	(貸) 現金	1,000
--------	-------	--------	-------

このうち、仕入原価 900 円分を 1,300 円で販売し、代金は現金で受け取った。

(借) 現金	1,300	(貸) 売上	1,300
--------	-------	--------	-------

仕入		売上	
現金	1,000	現金	1,300

繰越商品	
前期繰越	200

③ 決算整理前残高試算表の一部(3月31日)

決算整理前残高試算表				
期首商品	繰越商品(資産)	200	売 上(収益)	1,300
当期仕入	仕 入(費用)	1,000		

④ 決算整理 (3月31日)

決算整理事項；期末現在仕入原価 300 円の商品が残っている。

- i 前T Bの繰越商品 a/c(資産)200 円は期首商品をあらわすが、これらはすべて販売されたと仮定して、費用である仕入 a/c (売上原価)に振り替える(繰越商品 a/c を一旦ゼロにする)。

(借) 仕	入	200	(貸) 繰 越 商 品	200
-------	---	-----	-------------	-----

- ii 前T Bでは、期末商品 300 円は費用である仕入 a/c(売上原価)に含まれているが、未売却であるから売上原価を構成しない。そこで、当該商品金額を仕入 a/c から資産である繰越商品 a/c へ振り替える。

(借) 繰 越 商 品	300	(貸) 仕	入	300
-------------	-----	-------	---	-----

仕 入		売 上	
現金	1,000	繰越商品	300
繰越商品	200	現金	1,300
繰越商品			
前期繰越	200	仕入	200
仕入	300		

⑤ 決算整理後残高試算表の一部 (3月31日)

決算整理後残高試算表				
期末商品	繰越商品(資産)	300	売上(収益)	1,300
売上原価	仕入(費用)	900		

⑥ 財務諸表

損 益 計 算 書 (一部)			
売 上 原 価	900	売 上 高	1,300
貸 借 対 照 表 (一部)			
商 品	300		

ここがポイント！ 前T Bと後T Bの勘定が表す意味を理解すること。

4 売上原価の算定式・ボックス図

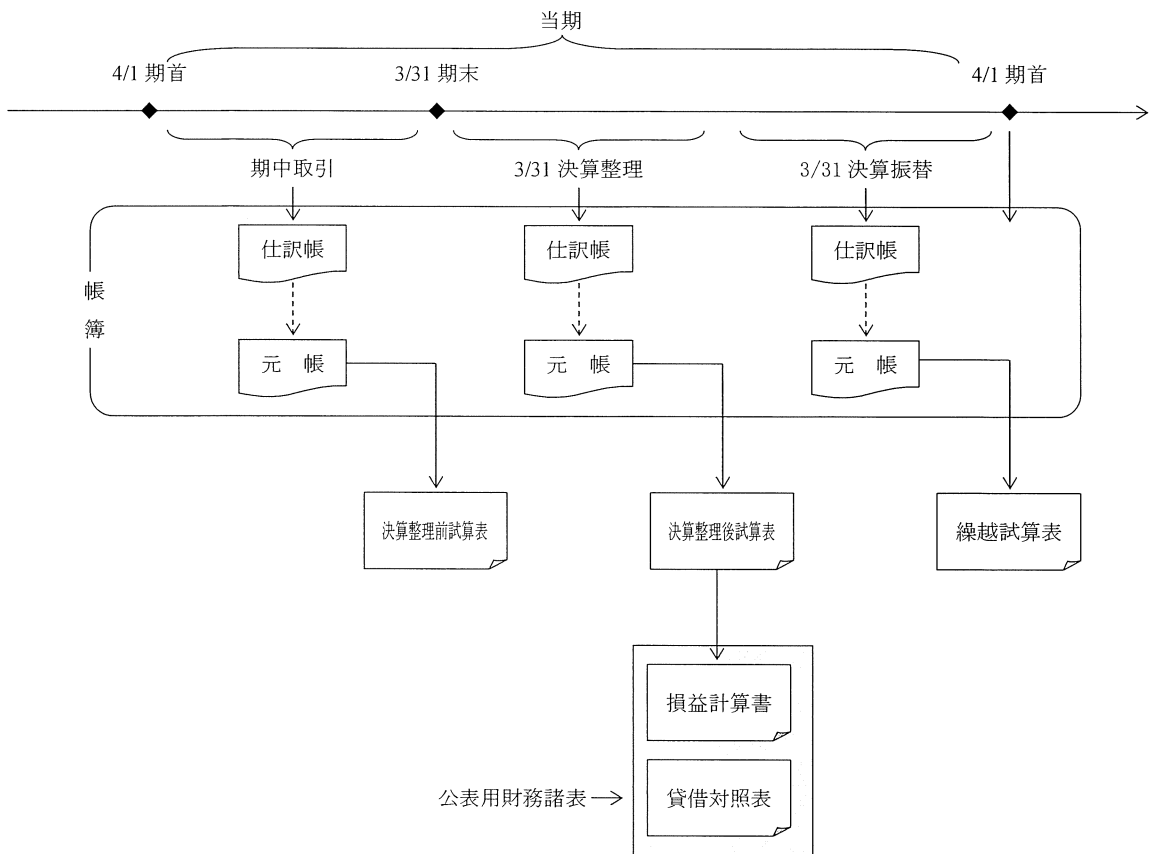
売上原価＝期首商品棚卸高＋当期商品仕入高－期末商品棚卸高
(期首商品在庫) (当期仕入) (期末商品在庫)

商 品	
期首商品 200	売上原価 ∴900
当期仕入 1,000	
期末商品 300	

商品売買取引を「繰越商品」(資産)、「仕入」(費用)「売上」(収益)という3つの勘定を用いて記帳する方法を三分法という。

決算振替

I 簿記一巡



1 決算整理前残高試算表 3月31日

決算整理前残高試算表					
現 金	800	借 入 金	100		
仕 入	500	資 本 金	400		
		売 上	800		
	<u>1,300</u>		<u>1,300</u>		

2 決算整理 3月31日

決算整理事項；期末商品棚卸高は50円である。

(借) 繰 越 商 品	50	(貸) 仕 入	50
-------------	----	---------	----

決算整理後残高試算表					
現 金	800	借 入 金	100		
繰 越 商 品	50	資 本 金	400		
仕 入	450	売 上	800		
	<u>1,300</u>		<u>1,300</u>		

3 財務諸表作成（帳簿外） 3月31日

損 益 計 算 書			
×1年4月1日 至×2年3月31日			
売 上 原 価	450	売 上 高	800
当 期 純 利 益	350		
	<u>800</u>		<u>800</u>

貸 借 対 照 表			
×2年3月31日			
現 金	800	借 入 金	100
商 品	50	資 本 金	400
		繰越利益剰余金	350
	<u>850</u>		<u>850</u>

4 決算振替 3月31日

(1) 損益振替

損益は会計期間ごとに計算するため、収益・費用の各勘定は毎期残高ゼロからスタートする。

そこで、収益・費用の各勘定残高をゼロにして締め切るために損益振替が行われる。

損益振替とは、収益・費用の勘定について、残高とは貸借逆サイドに仕訳をして残高をゼロにすると共に、相手勘定を損益とし、収益・費用の各勘定の残高を損益勘定に振替える手続きである。

(借) 売	上	800	(貸) 損	益	800
(借) 損	益	450	(貸) 仕	入	450

売			上		
3/31 損	益	<u>800</u>	?? 現	金	<u>800</u>
仕			入		
?? 現	金	500	3/31 繰越商品		50
		<u>500</u>	3/31 損益		<u>450</u>
					<u>500</u>
損			益		
3/31 仕	入	450	3/31 売	上	800

損益振替を行うと、収益・費用の科目がすべて損益勘定に集まるため、残高は当期純利益を表す。

(2) 資本振替

損益計算書で算定された当期純利益を貸借対照表の繰越利益剰余金に含めたように、帳簿上も損益勘定の残高で計算された当期純利益を繰越利益剰余金勘定に振替える必要がある。これを資本振替という。

(借) 損	益	350	(貸) 繰越利益剰余金	350
-------	---	-----	-------------	-----

損			益		
3/31 仕	入	450	3/31 売	上	800
" 繰越利益剰余金		<u>350</u>			<u>800</u>
		<u>800</u>			
繰越利益剰余金					
(3/31) (次期繰越)	(350)		3/31 損	益	<u>350</u>

5 勘定の締め切りと次期繰越

収益・費用の勘定は残高をゼロにして締め切るが、資産・負債・資本の勘定は残高がゼロになるわけではない。そこで、一旦締め切りの処理を行ったうえで、次期に繰越す処理を行う。

現 金		金	
×××	800	(3/31) (次 期 繰 越) (800)	
4/1 前 期 繰 越	800		

繰 越 商 品		金	
3/31 仕 入	50	(3/31) (次 期 繰 越) (50)	
4/1 前 期 繰 越	50		

借 入 金		金	
(3/31) (次 期 繰 越) (100)		×××	100
		4/1 前 期 繰 越	100

資 本 金		金	
(3/31) (次 期 繰 越) (300)		×××	300
		4/1 前 期 繰 越	300

繰 越 利 益 剰 余 金		金	
(3/31) (次 期 繰 越) (350)		3/31 損 益	350
		4/1 前 期 繰 越	350

6 繰越試算表の作成

次期に繰越す金額を集めた試算表を作成し、繰越額の貸借一致を確認することにより繰越額の正確性を検証する。

繰 越 試 算 表			
現 金	800	借 入 金	100
繰 越 商 品	50	資 本 金	400
		繰 越 利 益 剰 余 金	350
	850		850

ここがポイント！

PL項目(収益・費用)はフローの概念であるため、次期には繰り越されず、繰越利益剰余金というストック項目に振替えられて繰り越される。

BS項目(資産・負債・資本)はストックの概念であるため、残高が次期に繰り越される。

Ⅱ 翌期における簿記一巡

1 期中取引 4月1日から3月31日

(借) 仕	入	500	(貸) 現	金	500
-------	---	-----	-------	---	-----

(借) 現	金	800	(貸) 売	上	800
-------	---	-----	-------	---	-----

決算整理前残高試算表

現	金	1,100	借	入	金	100
仕	入	500	資	本	金	400
繰	越	商	品	繰	越	利
		50	益	剰	余	金
			売		上	800
		<u>1,650</u>			<u>1,650</u>	

2 決算整理 3月31日

決算整理事項；期末商品棚卸高は60円である。

(借) 仕	入	50	(貸) 繰	越	商	品	50
-------	---	----	-------	---	---	---	----

(借) 繰	越	商	品	60	(貸) 仕	入	60
-------	---	---	---	----	-------	---	----

決算整理後残高試算表

現	金	1,100	借	入	金	100	
繰	越	商	品	60	資	本	金
仕	入	490	繰	越	利	益	剰
			余	金	350		
			売		上	800	
		1,650				1,650	

3 財務諸表作成（帳簿外） 3月31日

損 益 計 算 書			
自×2年4月1日 至×3年3月31日			
売 上 原 価	490	売 上 高	800
当 期 純 利 益	310		
	<u>800</u>		<u>800</u>

貸 借 対 照 表			
×3年3月31日			
現 金	1,100	借 入 金	100
商 品	60	資 本 金	400
		繰 越 利 益 剰 余 金	660
	<u>1,160</u>		<u>1,160</u>

4 決算振替 3月31日

(1) 損益振替

(借) 売 上	800	(貸) 損 益	800
(借) 損 益	490	(貸) 仕 入	490

(2) 資本振替

(借) 損 益	310	(貸) 繰 越 利 益 剰 余 金	310
---------	-----	-------------------	-----

売		上	
3/31 損 益	<u>800</u>	?? 現 金	<u>800</u>

仕		入	
?? 現 金	500	3/31 繰 越 商 品	60
3/31 繰 越 商 品	<u>50</u>	3/31 損 益	<u>490</u>
	<u>550</u>		<u>550</u>

損		益	
3/31 仕 入	490	3/31 売 上	800
" 繰 越 利 益 剰 余 金	<u>310</u>		
	<u>800</u>		<u>800</u>

5 勘定の締め切りと次期繰越

現 金									
??	?	?	?	800	(3/31) (次 期 繰 越)	(	800	)	
4/1	前 期 繰 越			800	??	仕	入	500	
??	売		上	800	(3/31) (次 期 繰 越)	(	1,100	)	
				1,600				1,600	
4/1	前 期 繰 越			1,100					

繰 越 商 品									
3/31	仕		入	50	(3/31) (次 期 繰 越)	(	50	)	
4/1	前 期 繰 越			50	3/31	仕	入	50	
3/31	仕		入	60	(3/31) (次 期 繰 越)	(	60	)	
4/1	前 期 繰 越			60					

借 入 金									
(3/31) (次 期 繰 越)	(	100	)		??	?	?	?	100
(3/31) (次 期 繰 越)	(	100	)		4/1	前 期 繰 越			100
					4/1	前 期 繰 越			100

資 本 金									
(3/31) (次 期 繰 越)	(	400	)		??	?	?	?	400
(3/31) (次 期 繰 越)	(	400	)		4/1	前 期 繰 越			400
					4/1	前 期 繰 越			400

繰 越 利 益 剰 余 金									
(3/31) (次 期 繰 越)	(	350	)		3/31	損		益	350
(3/31) (次 期 繰 越)	(	660	)		4/1	前 期 繰 越			350
					3/31	損		益	310
				660					660
					4/1	前 期 繰 越			660

6 繰越試算表の作成

繰 越 試 算 表									
現 金			1,100		借 入 金				100
繰 越 商 品			60		資 本 金				400
					繰 越 利 益 剰 余 金				660
			1,160						1,160

決算整理

I 経過勘定

1 意義

一定期間の損益を正しく計算するためには、当期に属する収益・費用と、次期以降に属する収益・費用を正しく区別する必要がある。すでに現金の受取や支払を行い、すでに収益・費用として計上されているものの中に、次期以降に属する収益・費用が含まれていたり、逆に、当期に属する収益・費用が未だ金銭の支払や受取を行っていないために処理されていないことがある。

この状態では正しい損益計算を行うことができないため、決算整理にあたり、当期に属する収益・費用だけを当期の収益・費用として計上するための手続きが必要になる。当該手続きによって生じる勘定を「経過勘定」という。

経過勘定には「前払費用」「前受収益」「未払費用」「未収収益」がある。

なお、これらの経過勘定は、借入金の利息や家賃等のように、一定の契約によって每期継続して役務（サービス）の授受が行われる取引から生じ、その契約は時の経過を対象とするものである。

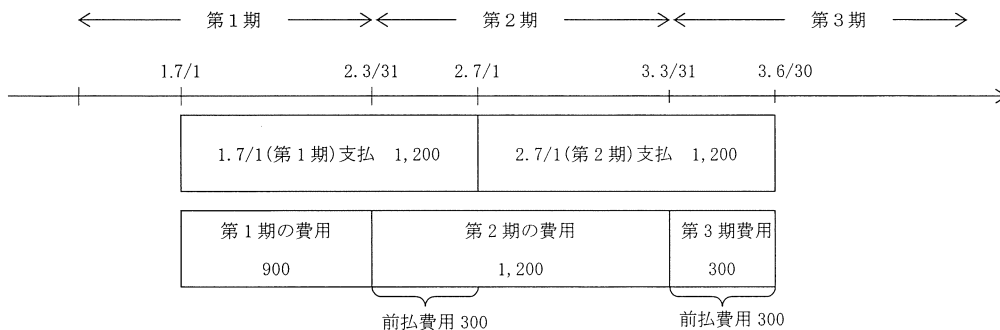
2 前払費用（費用の繰延）

(1) 意義

当期に支払った費用の額の中に次期以降に属する費用が含まれている場合、これを当期の費用から控除して次期以降の費用とするために繰り延べる必要がある。これを費用の繰延といい、費用の繰延によって生じる経過勘定を「前払費用」という。

前払費用はすでに金銭の支払いは行っているが、未だその金銭に対するサービスを受けていないため、次期以降にサービスを受ける権利（資産）を表す。

(2) 借入期間2年 毎年7月1日に1年分の利息を前払い



【第1期】

1. 前期末繰越試算表

前 期 末 繰 越 試 算 表			
前払利息	300		
前払利息		支払利息	
前期繰越	300		

2. 2.4/1 再振替仕訳

(借) 支払利息	300	(貸) 前払利息	300
前払利息		支払利息	
前期繰越	300	支払利息	30
		前払利息	300

1. 1.7/1 1.7/1～2.6/30 分の利息支払

(借) 支払利息	1,200	(貸) 現 金	1,200
----------	-------	---------	-------

3. 2.7/1 2.7/1～3.6/30 分の利息支払

(借) 支払利息	1200	(貸) 現 金	1200
前払利息		支払利息	
前期繰越	300	支払利息	30
		前払利息	300
		現金	1,200

2. 決算整理前残高試算表 (2.3/31)

決 算 整 理 前 残 高 試 算 表	
支払利息	1,200 ←支払った分が計上され

4. 決算整理前残高試算表 (3.3/31)

決 算 整 理 前 残 高 試 算 表	
支払利息	1,500 ←期首～3.6/30 まで15カ月分が計上される

3. 決算整理仕訳 (2.3/31)

第2期 4/1～6/30 分を繰り延べる。

(借) 前払利息(*1)	300	(貸) 支払利息	300
(*1) サービスを受ける権利			

5. 決算整理仕訳 (3.3/31)

第3期 4/1～6/30 分を繰り延べる。

(借) 前払利息	300	(貸) 支払利息	300
----------	-----	----------	-----

4. 決算整理後残高試算表 (2.3/31)

決 算 整 理 後 残 高 試 算 表	
前払利息	300
支払利息	900 ←借りていた期間(9 か月)に対応する利息が計上される

6. 決算整理後残高試算表 (3.3/31)

決 算 整 理 後 残 高 試 算 表	
前払利息	300
支払利息	1,200

5. 財務諸表

損 益 計 算 書	
支払利息	900

7. 財務諸表

損 益 計 算 書	
支払利息	1,200

貸 借 対 照 表	
前払費用	300 ←表示科目に注意！

貸 借 対 照 表	
前払費用	300

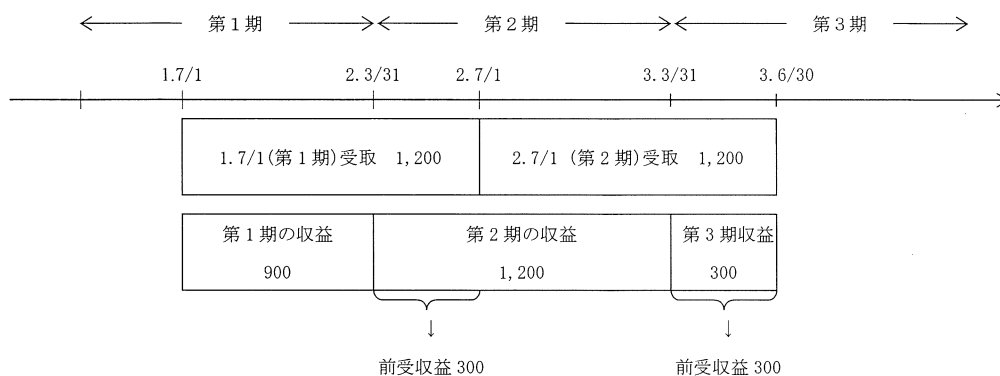
3 前受収益（収益の繰延）

(1) 意義

当期に受取った収益の額の中に次期以降に属する収益が含まれている場合、これを当期の収益から控除して次期以降の収益とするために繰り延べる必要がある。これを収益の繰り延べといい、収益の繰り延べによって生じる経過勘定を「前受収益」という。

前受収益はすでに金銭の受取りは行っているが、未だその金銭に対するサービスを提供していないため、次期以降にサービスを提供する義務（負債）を表す。

(2) 貸付期間 2 年 毎年 7 月 1 日に 1 年分の利息を前受け



【第1期】

【第2期】

1. 前期末繰越試算表

前 期 末 繰 越 試 算 表			
		前受利息	300
前受利息			
前期繰越	300		

2. 2.4/1 再振替仕訳

(借) 前受利息 300 (貸) 受取利息 300			
前受利息			
受取利息	300	前期繰越	300
		前受利息	300

1. 1.7/1 1.7/1～2.6/30 分の利息受取

(借) 現 金	1,200	(貸) 受取利息	1,200
---------	-------	----------	-------

3. 2.7/1 2.7/1～3.6/30 分の利息受取

(借) 現 金	1,200	(貸) 受取利息	1,200
---------	-------	----------	-------

前受利息		受取利息	
受取利息	300	前期繰越	300
		前受利息	300
		現金	1,200

2. 決算整理前残高試算表 (2.3/31)

決算整理前残高試算表		
受取った分が計上される→	受取利息	1,200

4. 決算整理前残高試算表 (3.3/31)

決算整理前残高試算表		
期首～3.6/30 まで 15 カ月	受取利息	1,500
分計上される→		

3. 決算整理仕訳 (2.3/31)

第2期 4/1～6/30 分を繰り延べる。

(借) 受取利息	300	(貸) 前受利息(*1)	300
----------	-----	--------------	-----

(*1) サービスを提供する義務

5. 決算整理仕訳 (3.3/31)

第3期 4/1～6/30 分を繰り延べる。

(借) 受取利息	300	(貸) 前受利息	300
----------	-----	----------	-----

前受利息		受取利息	
受取利息	300	前期繰越	300
		受取利息	300
		現金	1,200

4. 決算整理後残高試算表 (2.3/31)

決算整理後残高試算表		
	前受利息	300
	受取利息	900

6. 決算整理後残高試算表 (3.3/31)

決算整理後残高試算表		
	前受利息	300
	受取利息	1,200

5. 財務諸表

損 益 計 算 書		
	受取利息	900

7. 財務諸表

損 益 計 算 書		
	受取利息	1,200

貸 借 対 照 表		
表示科目に注意！→	前受収益	300

貸 借 対 照 表		
	前受収益	300

4 未払費用（費用の見越）

(1) 意義

当期においてすでに費用として発生しているが、契約により未だ金銭の支払いが行われていない費用がある場合、支払が行われていなくても当期に属する費用は当期の費用として計上する必要がある。これを「費用の見越し」といい、費用の見越しによって生じる経過勘定を「未払費用」という。

未払費用はすでにサービスの提供を受けているが、未だ金銭の支払いが行われていないため、次期以降に当該部分の金銭の支払いを行う義務（負債）を表す。

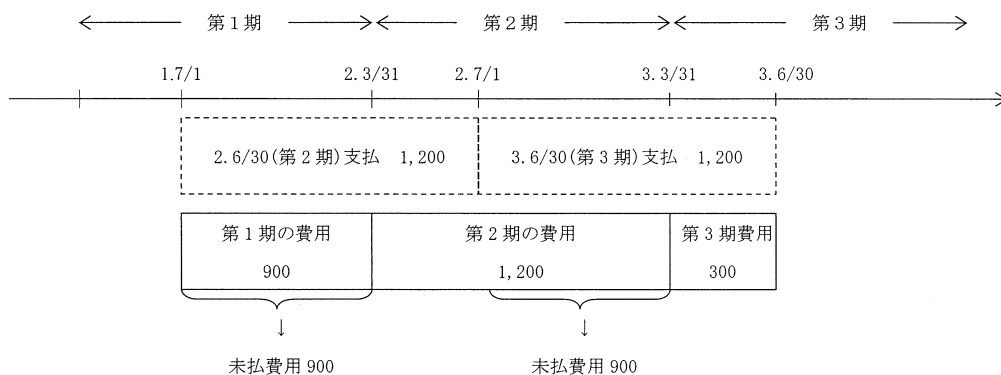
(2) 「未払金」と「未払費用」の違い

未払金・・・確定債務（現段階で法的に支払いが確定している債務）

未払費用・・・不確定債務（現段階で法的に支払いが確定していない債務）

一定の契約に従って每期継続して役務の提供が行われる取引から生じる

(3) 借入期間2年 毎年6月30日に1年分の利息を後払い



【第1期】

【第2期】

1. 前期末繰越試算表

前 期 末 繰 越 試 算 表			
		未払利息	900
未払利息		支払利息	
	前期繰越	900	

2. 2.4/1 再振替仕訳

(借) 未払利息	900	(貸) 支払利息	900
未払利息		支払利息	
支払利息	900	前期繰越	900
		未払利息	900

1. 期中取引

利息の支払いはなし

3. 2.6/30 1.7/1～2.6/30 分の利息支払

(借) 支払利息	1200	(貸) 現 金	1200
未払利息		支払利息	
支払利息	900	前期繰越	900
		現金	1,200
		未払利息	900

2. 決算整理前残高試算表 (2.3/31)

決 算 整 理 前 残 高 試 算 表	
期中支払いがないため、利息は計上されていない	

3. 決算整理仕訳 (2.3/31)

第1期 7/1～3/31 分を見越し計上する。

(借) 支払利息	900	(貸) 未払利息(*1)	900
----------	-----	--------------	-----

(*1) 金銭を支払う義務

4. 決算整理前残高試算表 (3.3/31)

決 算 整 理 前 残 高 試 算 表			
支払利息	300	← 期首～2.6/30 まで3カ月分	
		が計上される	

5. 決算整理仕訳 (3.3/31)

第2期 7/1～3/31 分を見越し計上する。

(借) 支払利息	900	(貸) 未払利息	900
未払利息		支払利息	
支払利息	900	前期繰越	900
		支払利息	900
		現金	1,200
		未払利息	900

4. 決算整理後残高試算表 (2.3/31)

決 算 整 理 後 残 高 試 算 表			
支払利息	900	未払利息	900

5. 財務諸表

損 益 計 算 書	
支払利息	900

貸 借 対 照 表	
表示科目に注意！→	未払費用 900

6. 決算整理後残高試算表 (3.3/31)

決 算 整 理 後 残 高 試 算 表			
支払利息	1,200	未払利息	900

7. 財務諸表

損 益 計 算 書	
支払利息	1200

貸 借 対 照 表	
	未払費用 900

5 未収収益（収益の見越）

(1) 意義

当期においてすでに収益として発生しているが、契約により未だ金銭の受取が行われていない収益がある場合、受取が行われていなくても当期に属する収益は当期の収益として計上する必要がある。これを「収益の見越」といい、収益の見越によって生じる経過勘定を「未収収益」という。

未収収益はすでにサービスの提供をしているが、未だ金銭の受取が行われていないため、次期以降に当該部分の金銭を受け取る権利（資産）を表す。

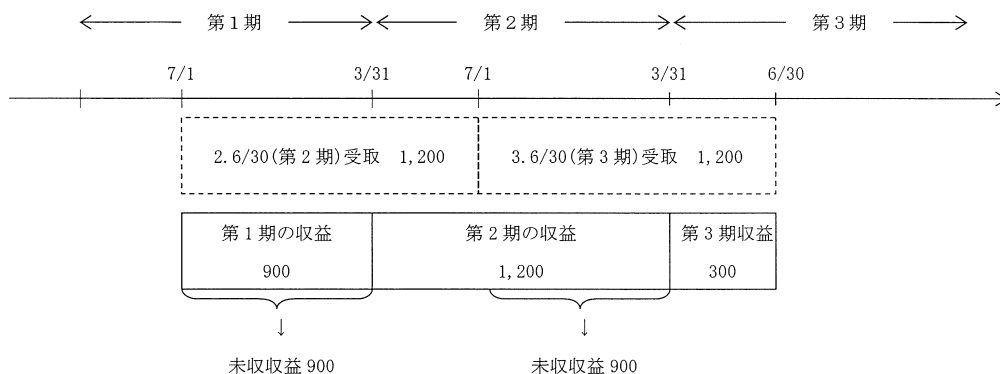
(2) 「未収入金」と「未収収益」の違い

未収入金・・・確定債権（現段階で法的に受取りが確定している債権）

未収収益・・・不確定債権（現段階で法的に受取りが確定していない債権）

一定の契約に従って每期継続して役務の提供が行われる取引から生じる

(3) 貸付期間 2 年 毎年 6 月 30 日に 1 年分の利息を後受け



【第1期】

【第2期】

1. 前期末繰越試算表

前 期 末 繰 越 試 算 表			
未収利息	900		
	未収利息		受取利息
前期繰越	900		

2. 2.4/1 再振替仕訳

(借) 受取利息	900	(貸) 未収利息	900
----------	-----	----------	-----

	未収利息		受取利息
前期繰越	900	受取利息	900
	未収利息	900	

1. 期中取引

利息の受取はなし

3. 2.6/30 1.7/1～2.6/30 分の利息受取

(借) 現 金	1,200	(貸) 受取利息	1,200
---------	-------	----------	-------

	未収利息		受取利息
前期繰越	900	受取利息	900
	未収利息	900	現金
			1,200

2. 決算整理前残高試算表 (2.3/31)

決 算 整 理 前 残 高 試 算 表	
期中受取がないため、利息は計上されていない	

4. 決算整理前残高試算表 (3.3/31)

決 算 整 理 前 残 高 試 算 表	
期首～2.6/30 まで3ヶ月分 →	受取利息 300
が計上される	

3. 決算整理仕訳 (2.3/31)

第1期 7/1～3/31 分を見越し計上する。

(借) 未収利息(*1) 900	(貸) 受取利息	900
------------------	----------	-----

(*1) 金銭を受け取る権利

5. 決算整理仕訳 (3.3/31)

第2期 7/1～3/31 分を見越し計上する。

(借) 未収利息	900	(貸) 受取利息	900
----------	-----	----------	-----

	未収利息		受取利息
前期繰越	900	受取利息	900
受取利息	900		
		未収利息	900

4. 決算整理後残高試算表 (2.3/31)

決 算 整 理 後 残 高 試 算 表			
未収利息	900	受取利息	900

6. 決算整理後残高試算表 (3.3/31)

決 算 整 理 後 残 高 試 算 表			
未収利息	900	受取利息	1,200

5. 財務諸表

損 益 計 算 書	
	受取利息 900

7. 財務諸表

損 益 計 算 書	
	受取利息 1,200

貸 借 対 照 表	
未収収益	900 ←表示科目に注意！

貸 借 対 照 表	
未収収益	900